

青い空と豊かな大地のために

いま動き出す**土壌消毒**の大きな力!

Nisso

土壌消毒剤

バスアミド[®] 微粒剤

®はKSTの登録商標です。

刺激臭が少ない

優れた効果

散布が簡単

■適用作物・病害虫・雑草と使用方法 (2022年4月適用拡大)

*本剤およびダゾメットを含む農業の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害虫・雑草名・使用目的	使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
キャベツ	苗立枯病(リゾクトニア菌)、株腐病、萎黄病 パーティシリウム萎凋病	20~30kg/10a	は種または 定植21日前まで	1 回	A
はくさい	根こぶ病、ネコブセンチュウ、一年生雑草 尻腐病、根くびれ病、黄化病 ネグサレセンチュウ				
だいこん	パーティシリウム黒点病、根こぶ病、萎黄病 一年生雑草	10~20kg/10a	は種21日前まで		
かぶ	パーティシリウム黒点病、根こぶ病、萎黄病 一年生雑草	20~30kg/10a	は種または 定植21日前まで		
ブロッコリー	テンサイシストセンチュウ	30kg/10a	は種または		
カリフラワー	根こぶ病、一年生雑草	20~30kg/10a	定植21日前まで		
非結球あぶらな科葉菜類 (非結球メキャベツ、こまつな、 非結球はくさい、なばな類、 チンゲンサイ、みずなを除く)	根こぶ病 一年生雑草	30kg/10a	は種14日前まで		
非結球メキャベツ	萎黄病、一年生雑草	20~30kg/10a	定植21日前まで は種10日前まで		
こまつな	萎黄病、根こぶ病、一年生雑草		は種または 定植14日前まで		
非結球はくさい	萎黄病、根こぶ病、一年生雑草	20kg/10a	は種または		
なばな類	根こぶ病、一年生雑草	20kg/10a	定植21日前まで		
チンゲンサイ		30kg/10a	は種12日前まで		
みずな	立枯病(ビシウム菌)、根こぶ病、一年生雑草	20kg/10a	は種35日前まで		
はつかだいこん	一年生雑草	20kg/10a	は種35日前まで		
きゅうり	苗立枯病(ビシウム菌、リゾクトニア菌) つる割病、半身萎凋病、白絹病、一年生雑草	200~400g/m ²	は種または 定植21日前まで	B	
かぼちゃ	フザリウム立枯病、苗立枯病(リゾクトニア菌)、一年生雑草	20~30kg/10a		A	
メロン	黒点根腐病、つる割病、半身萎凋病、黒変根腐症 白絹病、一年生雑草 紅色根腐病	30kg/10a		B	
すいか	苗立枯病(リゾクトニア菌) つる割病、白絹病、一年生雑草	200~400g/m ² 20~30kg/10a		A	
にがうり	つる割病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	200~300g/m ²		B	
トマト	苗立枯病(リゾクトニア菌) 萎凋病、褐色根腐病、根腐萎凋病、白絹病、半身萎凋病 ネコブセンチュウ、一年生雑草	20~30kg/10a		A	
ミニトマト	紅色根腐病	30kg/10a		A	
	青枯病	30~60kg/10a			

作物名	適用病害虫・雑草名・使用目的	使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
ピーマン	苗立枯病(リゾクトニア菌)、半身萎凋病 萎凋病、白絹病、一年生雑草	30kg/10a	は種または 定植21日前まで	1 回	A
なす	青枯病 苗立枯病(リゾクトニア菌)、半身萎凋病、白絹病 ネコブセンチュウ、一年生雑草				
ばれいしょ	そうか病、粉状そうか病、黒あざ病	20~30kg/10a	植付21日前まで		
とうがらし類	萎凋病、一年生雑草	30kg/10a	定植21日前まで		
ねぎ	疫病、青枯病、苗立枯病(リゾクトニア菌)				
ねぎ	黒腐菌核病	30~60kg/10a	は種または 定植14日前まで		
	紅色根腐病、ネギハモグリバエ	30kg/10a			
わけぎ	白絹病、小菌核腐敗病、萎凋病、根腐萎凋病 苗立枯病(リゾクトニア菌)、ネコブセンチュウ、一年生雑草	20~30kg/10a	は種または 定植21日前まで		
たまねぎ	苗立枯病(リゾクトニア菌)、一年生雑草	30~60kg/10a			
	黒腐菌核病	30kg/10a			
	紅色根腐病	20~40kg/10a			
	苗立枯病	20~30kg/10a			
葉たまねぎ(苗床)	乾腐病、白絹病、ネコブセンチュウ、一年生雑草 黒穂病、一年生雑草	20kg/10a	秋期(翌春は種)	C	
にんにく	べと病	20kg/10a	は種14日前まで		
らっきょう	一年生雑草	10~20kg/10a	は種14日前まで	A	
らっきょう	紅色根腐病、白絹病、イモグサレセンチュウ、一年生雑草	30kg/10a	植付28日前まで		
にら	根腐病、乾腐病、ネコブセンチュウ、一年生雑草		植付21日前まで		
にら	乾腐病、白絹病、紅色根腐病 一年生雑草	30~60kg/10a	は種または 定植21日前まで		
にんじん	萎凋病、根腐病、しみ腐病、乾腐病、白絹病 ネコブセンチュウ、一年生雑草	20~30kg/10a			
パセリ	苗立枯病(リゾクトニア菌)、疫病、萎凋病、一年生雑草	30kg/10a	は種10日前まで		
セルリー	萎黄病、一年生雑草				
あしたば	苗立枯病(リゾクトニア菌)、一年生雑草	20kg/10a	は種21日前まで		
しゅんぎく	萎凋病、一年生雑草	20~30kg/10a	は種28日前まで		
ごぼう	萎凋病				
葉ごぼう	黒あざ病、一年生雑草	30kg/10a	は種21日前まで		
もりあざみ	半身萎凋病				
レタス	ネグサレセンチュウ	20~30kg/10a	は種または 定植14日前まで		
非結球レタス	すそ枯病、白絹病、一年生雑草				
食用ざく	すそ枯病、根腐病、白絹病、一年生雑草	30kg/10a	は種または 定植21日前まで		
	センチュウ類(ハガレセンチュウを除く)、萎凋病 半身萎凋病、白絹病、一年生雑草				
ふき	青枯病	30kg/10a	は種または 定植21日前まで		
みつば	半身萎凋病、白絹病、一年生雑草				
豆類(未成熟)、 (ただし、えだまめ、実えんどう、 さやえんどう、さやいんげん、 未成熟そらまめを除く)	立枯病、一年生雑草	20kg/10a	は種21日前まで		
	苗立枯病(リゾクトニア菌)、莖腐病、一年生雑草	30kg/10a	は種または 定植21日前まで		
さやいんげん	苗立枯病(リゾクトニア菌)、葉腐病、白絹病、一年生雑草	20~30kg/10a			
えだまめ	ダイズシストセンチュウ	30kg/10a	は種または 定植21日前または 定植前45日前まで		
未成熟そらまめ	えそモザイク病				
さやえんどう 実えんどう	苗立枯病(リゾクトニア菌)、莖腐病、一年生雑草	20~30kg/10a	は種または 定植21日前まで		
かんしょ	紫紋羽病、つる割病、白絹病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	30kg/10a	植付21日前まで		
	基腐病				
こんにゃく	白絹病、乾腐病	20~30kg/10a	植付21日前まで		
	根腐病、一年生雑草	20~60kg/10a			
さといも さといも(葉柄)	乾腐病、ネグサレセンチュウ、一年生雑草	20~30kg/10a	定植21日前まで		
しょうが	根茎腐敗病	30~60kg/10a			
	一年生雑草	20~30kg/10a			
葉しょうが	根茎腐敗病	30kg/10a			
	一年生雑草	20~30kg/10a			
みょうが(花穂) みょうが(莖葉)	立枯症、一年生雑草	30kg/10a	定植42日前まで		
いちご	萎黄病、萎凋病、炭疽病、芽枯病、一年生雑草	20~30kg/10a	仮植または 定植21日前まで		
	青枯病、疫病	30kg/10a			
ほうれんそう	ホウレンソウケナガコダニ	10kg/10a	は種10日前まで		
	萎凋病、株腐病、立枯病、根腐病、一年生雑草	20~30kg/10a			
てんさい	叢根病、苗立枯病	200~400g/m ³	秋期(翌春は種)		
やまのいも	根腐病、褐色腐敗病、一年生雑草	20~30kg/10a	植付21日前まで		
つるむらさき	ネコブセンチュウ、一年生雑草		定植21日前まで		
しそ	青枯病、一年生雑草	30kg/10a	は種または 定植14日前まで		
	モロヘイヤ		定植30日前まで		
チャービル	ネコブセンチュウ、一年生雑草	20kg/10a	は種42日前まで		

*本剤およびダズメットを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害虫・雑草名・使用目的	使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
たばこ	センチュウ類、角斑病、野火病	10~20kg/10a	秋期(翌春植付)	1回	A
	立枯病、黒根病、疫病、一年生雑草	20~30kg/10a			
	センチュウ類、疫病	5~10kg/10a	春期(植付前)		D
桑	紫紋羽病、白紋羽病	1株当り(4m ²) 400~600g	夏期~秋期		E
りんご		50~100g/m ²			
なし	100g/m ²				
ぶどう	白紋羽病	50~100g/m ²			
芝	一年生雑草	目土用土1m ³ 当り100~200g	雑草発生前	B	
いくさ		30kg/10a	は種または定植21日前まで 畑苗床での定植28日前まで (入水15日前まで)		
花き類・観葉植物	苗立枯病(リゾクトニア菌)、株腐病、球根腐敗病 首腐病、半身萎凋病、萎凋病、萎黄病、白絹病、立枯病 根頭がんしゅ病、ネコブセンチュウ	20~30kg/10a	は種または植付前	A	
	青枯病	30kg/10a			
	一年生雑草	20~60kg/10a			
カーネーション	萎凋細菌病	20~30kg/10a	植付前		
きく	センチュウ類(ハガレセンチュウを除く)				
ストック	苗腐病	30~40kg/10a	植付前		
ぼたん、しゃくやく	萎凋病				
スターチス	根黒斑病	20~30kg/10a	は種または植付前		
グロリオサ	萎凋細菌病				
スイトビー	紅色根腐病				
さくらそう	腰折病				
トルコギキョウ	軟腐病				
パンジー	根腐病				
アイスランドポピー	根腐病				
せんりょう	萎縮病				
つつじ類	立枯病、一年生雑草				
樹木類(苗木)	センチュウ類、一年生雑草				
樹木類	一年生雑草			植付前	
	定植ほ場の南根腐病菌の密度低減			100g/m ²	定植前

A: 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。 B: 土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。 C: 本剤の所定量を均一に散布して浅く混和する。

D: 本剤の所定量を畦面に散布して土壌と十分混和する。 E: 被害株跡地に本剤の所定量を均一に散布して土壌と十分混和する。

散布から植付けまでの手順

① 土壌の整地

砕土はしていないに行う。砕土が不十分だったり、植物の残りがくすと、効果不足の原因になる。

② 均一散布

散布は散布機または手(手袋着用)で均一に散布する。

③ 土壌混和

散布後直ちにロータリーなどで、15~25cmの深さまで十分に混和する。

④ 散水

土壌水分が不足している場合は、処理後散水する。(土壌の湿り具合は、軽く握って崩れない程度が適正)

⑤ 表土を被覆

有効なガスが抜けないように混和後、必ず表土をビニールなどで被覆する。

⑥ ガス抜き(最低2回)

通常の使用では処理後地温15℃以上の場合には7~14日目にビニールを除去し、ロータリーなどで1回目のガス抜きを行う。その後2~3日後に再度ガス抜きを行う。ただし重粘土の土壌や降雨などにより土壌水分が多い場合は、ガスの拡散が遅いので被覆期間を延長する。

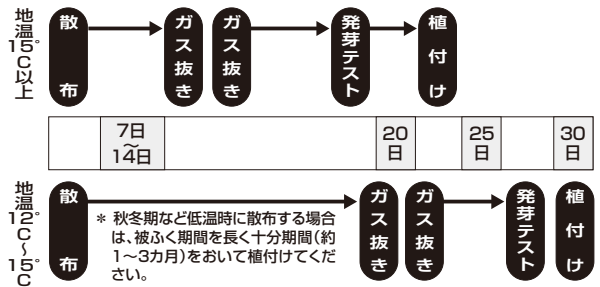
⑦ 発芽テスト

2回目のガス抜き後2~3日目に、ガスが完全に抜けたかどうかレタス・大根・カラシナなどのタネを用い、密封できる容器を使って室温で発芽テストを行う。

⑧ 施肥・植付け

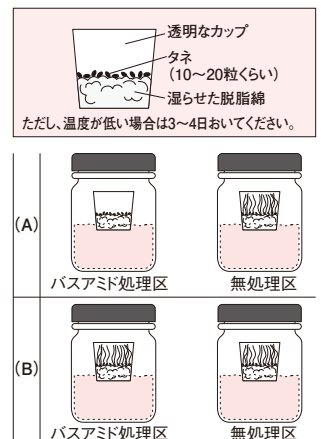
発芽テストで異常のないことを確かめてから施肥・植付けを行う。必ず無病の苗を用いる。堆肥は完熟堆肥を使用する。

● 散布から植付けまでの目安



● 発芽テストの方法 (2回目のガス抜き作業が終わってから2~3日後に行う)

- 密封できる透明な広口びんを最低2個用意し、一つにはバスアミドを処理した土(深さ10~15cmの所)、もう一つには無処理の土を、それぞれ半分くらい入れる。処理した土はびんに入れたらすぐにふたをする。(バスアミドを処理した土は、できれば違う場所数ヶ所から採取し、それぞれテストする)
- 透明なカップに、湿らせた脱脂綿を入れ、発芽の早い野菜の種子を播き、それをびんの中に置く。再びすぐに密閉し、室温の高い所に2日ほど置き、発芽状態をチェックする。
- 処理区の種子が発芽しなかったり、発芽抑制を受けている場合は土壌中にガスが残っているため、再度ガス抜きを行う。(A)
- 処理区の種子が無処理区と比べ、発芽に異常がないと認められてから植え付けをする。(B)



⚠ 効果・薬害などの注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 処理する前に耕起整地してください。
- 本剤は土壤中の水分によって分解し、ガスを発生することによって効果を発揮するもので、土壌の種類、水分含量、温度等により効果にふれが出るので、以下のことに十分留意してください。
 - ①地温が10℃以下の時には使用しないでください。
 - ②砂質土壌や乾燥した土壌で使用する場合は、ていねいに混和した後、灌水して適度の水分を与えてから被覆してください。
 - ③次の場合はガスの拡散が遅いので、被覆期間を適宜延長してください。
 - ア.重粘土質の土壌の場合
 - イ.降雨などにより土壌水分が多い場合
 - ウ.地温が低い(15℃以下)場合
- センチュウが多発する条件、あるいは、トマト、なすでは、センチュウ類に対する効果が劣る場合があるので、センチュウを防除対象とする場合には、他の防除方法と併用して使用してください。
- ガス抜きが不十分であると薬害が生じるおそれがあるので、少なくとも2回は耕起によるガス抜きを実施してください。なお、ガス拡散の遅い条件の場合は特にていねいに行ってください。
- 全面に処理する場合、深さ15～25cmに土壌と十分に混和してください。特にやまのいもに使用する場合は、深さ50～60cmに土壌と十分に混和してください。混和後ビニール等で被覆または鎮圧散水してガスの蒸散を防いでください。7～14日後被覆を除去して、ガス抜きを行ってください。
- 苗立枯病または芝の目土用土に処理する場合、本剤を十分混和後ビニール等で被覆し、7～14日後被覆を除去して、ガス抜きを行ってください。
- 作物に直接ふれると薬害を生じるので、周辺に作物がある場合にはかからないように、十分間隔をおいて薬剤を処理してください。
- 温室やビニールハウスなどの施設内に作物がある場合、薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- りんご、桑、なし及びびょうどうに使用する場合は、被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めて、できるだけ広めに本剤を散布し、深さ25～40cm(りんごの場合は深さ40cm)に土壌と均一に混和してください。本剤処理20日後に被覆を除去して耕起し、翌春に植え付けてください。また、りんご、なし及びびょうどうでは、植え付けた年は果実を収穫しないでください。
- 南根腐病菌の密度低減のため樹木類に使用する場合は、以下の点に注意してください。
 - ①行政機関等(県、市町村)から南根腐病の発生地域として指定された防除を必要とする場所での使用に限ります。また、安全管理及び使用方法については、沖縄県の安全使用に係る指導内容を遵守し、人畜等への危被害防止に十分配慮してください。
 - ②被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めてできるだけ広めに本剤を散布し、深さ45cmに土壌と均一に混和し、ガスバリア性フィルムで被覆してください。本剤処理30日後に被覆を除去して耕起し、植え付けてください。
- ごぼうに使用する場合は生育抑制・岐根等の薬害を生じるおそれがあるので、処理からは種までの期間を十分とり、ガス抜きをていねいに行い、発芽テスト等で安全を確認の上、は種してください。
- しょうが及び葉しょうがの根茎腐敗病に対しては、多発生条件では効果が不十分な場合があるので注意してください。
- は種又は定植の20～10日前に使用する場合は、地温20℃以上の条件に限って使用してください。
- 芝の目土に処理する場合は、目土に含まれる雑草種子を殺す目的で目土を処理するものであるため、除草剤として芝生に直接散布することのないように注意してください。
- 葉たまねぎ(苗床)及びたまねぎの、は種14日前までに使用する場合は、均一に散布後、レーキ等で浅く(2～3cm)混和し、ビニール等で被覆してください。7日後に被覆を除去し、さらにその後7日間放置し、は種前にレーキ等で浅く整地しガス抜きを行ってください。
- たまねぎのべと病は感染力が強く拡がりやすい病害のため、散布剤との体系処理を行い、感染防除に努めてください。
- たまねぎに秋期に使用する場合は、均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆してください。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行ってください。は種は翌春に行ってください。
- ほうれんそうのハウレンソウケナゴナダニに使用量10kgで使用する場合は、均一に散布後、レーキ等で浅く(2～3cm)混和し、ビニール等で被覆してください。

- 5～10日後に被覆を除去し、は種前にレーキ等で浅く整地し、ガス抜きを行ってください。
- てんさいに秋期に使用する場合は、均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆してください。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行ってください。は種は翌春に行ってください。
- たばこに使用する場合は、次のことに注意してください。
 - ①秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和してください。混和後鎮圧してガスの蒸散を防ぎ翌春耕起した後、植え付けてください。
 - ②春期に使用する場合は、本剤を散布後、十分混和してください。混和後そのまま放置し、2週間後に畦立てをし、その2日後にビニール等で被覆してください。さらに2週間後に植え付けてください。
- ミツバチの巣箱周辺での使用はさけてください。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意

- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 本剤の処理の際は、吸入防止(活性炭入り)防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣、ゴム長靴などを着用してください。ガス抜き作業の際及び、ガス抜き作業前に施設内に立ち入る場合にも、同様の防護マスクを着用してください。また、薬剤が皮膚に付着したり、粉末や発生するガスを吸い込んだりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 作業に際してはガスに暴露しないよう、風向き等を十分配慮してください。
- 作業中及びくん蒸中の圃場等へ、小児等作業に関係のない者や、家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意してください。
- 住宅付近での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮してください。
- 街路、公園等の小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入るおそれのある場所で使用する場合は、発生するガスによって人畜等に被害を及ぼさないよう作業中、くん蒸及びガス抜き中は縄囲い及び立て札などを設置し、可能な限り広く立入禁止区域を設けてください。
- 水にふれると有毒なガスが発生するので保管及び取扱いに注意してください。

水産動物への影響：水産動物(魚類、甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光を避け、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所にカギをかけて保管してください。種子・苗・肥料、他の農業などと隔離してください。盗難・紛失の際は警察に届け出てください。

●バスアミド微粒剤の上手な使い方

- ①クロロピクリンとの同時処理は、作物への影響期間が長くなるため、絶対さけてください。
- ②施設内で使用する場合は、十分換気をして作業を行ってください。本剤は地温が高いほどガスの拡散が速いので、作業はできるだけ早朝など地温の低い時に行い、散布後速やかに土壌混和し被覆してください。大型連棟ハウスでは、散布から土壌混和、被覆までの一貫作業を小面積ごとに順次行うようにしてください。

本資料は2022年5月現在の登録に基づいています。

○使用前にはラベルをよく読んでください。○ラベルの記載以外には使用しないでください。○小児の手の届く所には置かないでください。

